

# ぐるっと縦走矢倉岳から明星ヶ岳②猪鼻岩跡

日時：2021年10月16日（土） 天候：小雨時々曇 歩数：2万歩 距離：11km  
集合：大雄山駅 8時20分

（小田急新松田駅から地蔵堂バス行き乗車の人は8時10分発→8時30分関本バス停）

コース：大雄山駅関本バス停→地蔵堂バス停<sup>トイレ</sup>（標高415m）→足柄峠<sup>トイレ</sup>（標高759m）→猪鼻岩跡（標高962m）→峠分岐→夕日の滝→地蔵堂バス停<sup>トイレ</sup>（バス）→大雄山駅関本バス停

参加者：L：市村 SL：河野 山田 岩元

A班：勅使河原 熊坂 奈良 清水 丹後 高橋友 三田

B班：平石 澤 高山 内海 古尾谷

16人

湘南の海岸から名峰富士山を望むと、その手前に右から矢倉岳、金時山、明神ヶ岳、明星ヶ岳が連なっています。ここを反時計回りに、右手（金時山からは後方）に富士山を望み、左手には相模湾を眺めながら縦走して箱根湯本へ下ります。当初4回コースで計画しましたが、金時山山頂直下、足柄峠からの鉄階段が昨年10月の台風19号により崩落して通行止め。そのため金時山コースは猪鼻岩跡までとして、乙女峠から金時山をめざすコースを追加して5回コースとしました。

9月15日に予定していた1回目の矢倉岳コースは、12日までだった新型コロナウイルス感染緊急事態宣言が9月末まで延長されたので中止。猪鼻岩跡コースから「ぐるっと縦走」スタートです。5月22日の「小涌谷から湯坂路で石仏群へ」以来、今年度2回目の健脚コース。16人が参加しました。



夕日の滝

## 大雄山駅～関本バス停～地藏堂バス停～ストレッチ&コース説明

集合は伊豆箱根鉄道大雄山駅、1925年（大正14年）10月15日に最乗寺参詣のために大雄山鉄道が小田原駅～大雄山駅間で開業。関東の駅百選に選定されていて、市登録有形文化財にも登録されています。駅舎横に熊にまたがる金太郎像があります。駅横のバスターミナルへ移動、バス停名は関本バス停、4番バス停で8時30分発のバスに乗車、小田急新松田駅から乗車の参加者と合流。バスは20分ほどで終点の地藏堂バス停へ到着。なんと小雨がぱらついてきました。駐車場脇を利用して河野サブリーダーによるストレッチ、市村リーダーがコース説明、みなさん、雨対策をして山行準備です。



## 地蔵堂 9時 10分スタート～足柄古道&県道～クマ注意～見晴台

地蔵堂は金時山や矢倉岳ハイキングの起点、標高は415m、9時10分にスタート。足柄峠までの上りは、足柄古道と県道78号御殿場大井線を出たり入ったり、地蔵堂を出てすぐの足柄古道は一昨年10月の台風19号による災害で復旧工事をしていて通行止め、岩元サブリーダーを先頭に県道を上ります。ランナーが追い抜いて行きました。右側は相ノ川、足柄古道に入ると「クマと思われる目撃情報がありましたので注意してください」の立て看板が出ていました。かなり険しい上り、勅使河原さんが元気に上って来ます。9時57分に見晴台到着、この日は曇り空で視界良くないのでスルーしました。



## 見晴台～足柄古道～トリカブトの花～10時12分足柄峠（標高759m）

小雨煙るなか2回ほど水分補給をして足柄古道を上ります。杉林を過ぎた足柄峠手前で紫色鮮やかなトリカブトの花を見ることができました。A班が10時12分、標高759メートルの足柄峠に出ました。10時16分、B班も到着。足柄の関跡があり「鎌倉時代に箱根道が開かれるまでは官道、公道として利用され、東海道最大の難所だった」と説明板に書かれていました。足柄峠の標柱を挟んで集合写真をパチリ。



## 足柄峠～聖天堂～緩やかな尾根道～1. 9km歩きゲートへ 金太郎像

足柄峠を10時25分にスタート、右手に聖天堂、入り口に「足柄山聖天堂電気電話開通記念碑」がありました。いつごろ開通したのでしょうか、画期的なことだったのでしょうか。足柄城址下に出ました。次回矢倉岳コースのときに上がる予定です。金時山まで3.7kmの緩やかな尾根道をゆったりと歩きます。ゲートまで来ました。ここまでは一般車も通行可、登山者が乗ってきた車が数台駐車していました。「足柄峠から1.9km、金時山へ1.8km」の道標、尾根道を半分歩いてきました。道標の上に小さな金太郎像、顔の表情が少し怖く、「もう少し可愛い顔にして」のつぶやきが聞こえました。



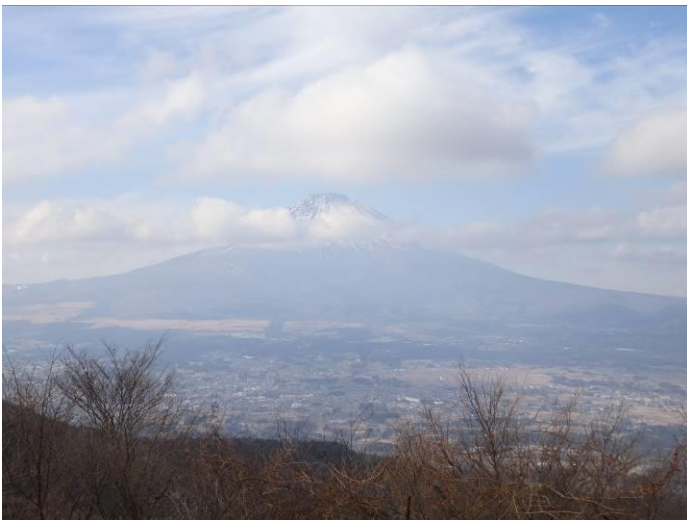
## ゲート～土の道へ～11時26分猪鼻砦跡（標高962m）昼食タイム

ゲートから上は、一般車通行止め。アスファルト道から土の道になり少し急峻に、それでも足裏の感触は心地よくなりました。道端に赤い果実の花が、どなたかが「マムシグサ」と教えてくれました。秋に果実が熟すようです。ここでもトリカブトを見ることができました、内海さんが写真を撮っているところパチリ。11時26分、標高962mの猪鼻砦跡に到着。地藏堂からの標高差547mを上って来ました。ここからあと700m進むと標高1212mの金時山なのですが、急峻な山頂直下の鉄階段が崩落して通行止め。夕日の滝コースも通行できなくなっています。ここでベンチやシートを敷いて昼食です。



## 富士山展望できず 集合写真 11時57分下山開始～12時17分 分岐

「富士山をバックに集合写真」を期待したのですが、富士山の姿かたち見えません。それどころか昼食中に雨になり、みなさんレインウェア状態で集合写真撮影です。ここで熊坂さんが2017年12月24日の「金時山に行きましょう」の写真を見せてくれました。夕日の滝コースから上ってきて富士山の眺望が開けました。もう一枚は、金時山山頂直下の幾つかめの鉄梯子を最初に登りきった中村年さん、急峻なのでカメラマンの私からは階段下の後続が見えません。このときの参加者は14人(熊坂リーダー、勅使河原、平石、高橋文、中村年、平野、河野、山内、栗田、市村、高橋紀、丹後、平吹、奥村、太字は今回も参加)。夕日の滝コースも通行止めなので、上って来た道を下って夕日の滝をめざします。11時57分、下山開始。ゲートを通り過ぎて12時17分、夕日の滝分岐に到着しました。



## 分岐 靴紐締め直し周知 12時25分～急峻な下り～13時22分 東屋

分岐で水分補給、市村リーダーが「ここからは、かなり急峻な下り箇所があり浮石や滑りやすいところもあるので注意。靴紐締め直してください。B班がゆっくり下ります。すれ違いもありますので後発のA班は間隔を空けて下りてください。急行さん通過などお互いに声かけ願います」、河野サブリーダーが「ストック持参の方は利用してください」と周知。12時25分、B班が河野さんを先頭に下山開始。少し間を空けてA班、先頭は岩元サブリーダー、最後尾は山田サブリーダー。みなさん、慎重に下ります。一番険しいところはレポーターも写真撮影厳しく撮れていません。沢まで下りてきて一安心。13時22分、東屋着。



## 東屋 13時30分～夕日の滝～14時25分 地藏堂バス停 歩数2万歩

雨の降りが少し強くなり、雨しのぎを兼ねて東屋で小休止。チョコレートなどの差し入れもあり和やかな雰囲気、下りの難所も無事通過したので会話も弾みます。雨が少し和らぎ13時30分、夕日の滝をめざしてスタート。丸太橋を渡ります。先行して下山するグループが雨に煙って見えます。赤い欄干の橋を渡ると夕日の滝が見えてきました。夕日の滝は落差23m、金太郎が産湯をつかった滝と伝えられています。集合写真撮影は山田カメラマン、ハイポーズ。地藏堂をめざします。野菜販売所でキノコ類など品定め、購入する人もいました。14時25分に地藏堂バス停に下りてきました。バスを下りたのが8時50分ですから、行動時間5時間35分になりました。歩数2万歩丁度、距離11kmでした。気象予報は曇りでしたが、一日小雨模様の山行。下り道が思っていたより濡れていなかったのが幸い、滑る人がいませんでした。事故なく楽しく歩いた猪鼻砦跡コース、14時45分発のバスで大雄山駅へ。(いちむら記)

